市民俳歌柳壇

俳壇　星田一草 選

寄鍋やいまも変はらぬ好き嫌ひ
●中今泉5丁目　丸田　守

◎選評　寄せ鍋は冬の家庭料理。具はいろいろと種類が多い方がおいしい。鍋を囲んでの一家だんらん。子どもの頃の好き嫌いも話題になる。明るい笑い声が聞こえてくる、ゆうげのひととき。楽しげな様子がまざまざと浮かんでくる。

柿たわわ挽ぎりてゆけと主の声
西川田本町3丁目　石原冨美子

水澄むや空へ切り立つ石切場
細谷町　平野フミ子

紅葉谷しぶきに櫂の力こぶ
上戸祭町　渡邉　順子

焼芋や店主宝のやうに撫で
西川田南1丁目　星野　志郎

歌壇　安野登美子 選

青空を蹴飛ばしながら走り去る
少年の靴銀杏色して
●下栗町　大塚　榮子

◎選評　作者の目前を一瞬通り過ぎていった寸景である。「青空を蹴飛ばしながら」走り去る少年の剛気さ、まぶしさが見える。靴に視点が向き「銀杏色して」秋いっぱいの色が、気配が、靴を染める。蹴り上げた靴の先に青空がまぶしい。少年が去った後、その光景の中にすっぽり溶け込む作者。躍動的なまぶしい調べの中に快く染みてくる一首である。

スマホから受信履歴を削除して
あなたの想い出全て断ち切る
花園町　小林　秀行

大銀杏県都の空を金色に染め
シンボルの役果たしをり
泉町　秋野　毅

刈り取り後五日もせずにひこばえが
早くも稽田みどりに染める
野沢町　鈴木　孝男

石蕗の花に止まりし蜜蜂が
花の蜜汲み飛んで行きたり
築瀬町　塚原　玲子

柳壇　荒井宗明 選

湯たんぽを抱いて早寝の灯油高
●古賀志町　天貝　久子

◎選評　湯たんぽは、陶製または金属製、あるいはゴム製で、中にお湯を入れて主に寝床で使用する足温器である。冷たい床の中で、湯たんぽを探って思いきり足を伸ばすと、たまらなく気持ちよかった。今は電気が万能となってしまったが、あのほっこりとした温かさは、まだ足の裏に残っている。

コスモスの寝ても起きても咲いてくれ
緑3丁目　宇賀神規子

孫の背も爺の背を越し天高し
江曽島町　長谷川　昇

喪の葉書ばかりが増えた住所録
鶴田町　御牧　秀世

喜寿米寿今日もどこか骨が鳴る
不動前2丁目　山中ヒロ子

うつのみやの　ひも　と
歴史を紐解く物語

第9回　古代国家を支えた
下毛野氏基盤の地　うつのみや

◀笹塚古墳

■今から約1600年前のうつのみや　大和王権が力を伸ばしていた5世紀。仁徳天皇が埋葬されているといわれる、日本最大の大仙古墳（大阪府堺市）が造られます。

時期を同じく、うつのみやの地でも全長が105mある市内最大の前方後円墳「笹塚古墳」が造られました。この場所は、現在のインターパーク付近で、近くでは豪族の居館跡や大規模な集落跡も発見されており、当時、この地域の中心地であったと考えられます。

■豊城入彦命と下毛野氏　日本書紀によると、二荒山神社の主祭神の豊城入彦命は「上毛野君・下毛野君の祖」であると記されています。また別の書物には、豊城入彦命の子孫の奈良別君は仁徳天皇の時代に下毛野の地を統治する下毛野国造に任ぜられたと書かれています。この話が本当であれば、笹塚古墳に埋葬されたのは下毛野氏の一族かもしれませんね。

■下毛野古麻呂と河内郡衙　さらに下毛野氏の子孫には、大宝律令の作成に携わった下毛野古麻呂という人物がいます。古麻呂は、正四位下、参議、式部卿など政権の要職を担った人で、下野薬師寺（下野市）の建立にも関係したといわれています。

この時期に河内郡の役所が置かれた場所が、宇都宮市と上三川町の境にある上神主・茂原官衙遺跡です。

◀上神主・茂原官衙遺跡

なぜ、この場所に役所が置かれたのか、古墳時代以来のつながりなのか、あるいは下毛野氏との関係なのか。皆さんもこの古代の謎解きに、チャレンジしてみてはいかがでしょうか。

問文化課☎(632)2764

文化・教養 スポーツ

ページ番号を市HPのトップページで入力してみよう。関連ページが見られるよ。

◎俳歌柳壇　応募方法　１人に付き俳句３句、短歌３首、川柳３句以内。対象は市内在住の人で、未発表作品に限ります。はがきに、作品（漢字にはふりがなも付けて）・住所・氏名（ふりがな）・応募する壇名を書き、毎月20日（消印有効）までに、〒320-8540市役所広報広聴課へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。市内に在住か通学している小・中学生からも応募をお待ちしています。問広報広聴課☎(632)2028